

**PAG・POEオイルを1台で完全分離回収できます！**  
**ハイブリッド車の入庫が多い小型・大型工場に最適！**  
**エアコンガスクリーナー 循環**

**YN-13・13P**

- YN-13・13Pは本体からホースを完全クリーニング！PAG・POEオイル入りエアコンガスに対応。
- 操作カンタンな自動運転！多彩なマニュアル操作も可能。
- YN-13Pは高性能真空ポンプ・大容量タンクを搭載。大型バス等のエアコンガス容量が大きい車両でもクイックにクリーニング。

※外観・仕様は予告なく変更になる可能性があります。



**「使用感」「測定表示の視認性」を追求、使いやすさを追求した最新テスター**  
**排気ガステスター**

**UREX-5000V-II**

- 表示部の測定表示は大きく、見やすく。操作ガイドは日本語表示とし、操作性を向上。
- 簡易判定機能付き。設定値をブザー音でお知らせ。
- オプションでプリンターと接続可能。
- ドレンセパレーターが本体内蔵のため、外観はすっきりコンパクト。

※外観・仕様は予告なく変更になる可能性があります。



**こまめな点検大きな安心 ANZENのメンテナンスメニュー**

“ご購入”だけではなく長く安全に“ご愛用”頂くために！ANZENは商品のご提案だけでなく、ご購入後のメンテナンスから代替・移設時のフォローまでニーズに応じて幅広くサポートいたします。

**保守点検** 簡易点検ではチェックすることができないところまで、プロの目で念入りに点検・調整を行います。

**予防整備** 消耗品や部品を定期的に交換し、点検・調整を行うことで経年劣化による故障を未然に防ぎます。

<p><b>車検機器</b></p> <p>車検機器は機器の精度が肝心です。定期校正(年1回)の前に事前点検を行います。</p>	<p><b>足回り機器</b></p> <p>消耗品のチェックをはじめ、バルブの精度やチェーンの動作等をプロの目で点検します。</p>	<p><b>洗浄機器</b></p> <p>CSアップを促す洗浄機器。洗浄能力を維持するために、水漏れやポンプ凍結などのトラブルを未然に防ぎましょう。</p>	<p><b>エア関連機器</b></p> <p>工場の心臓部でもあるエアコンプレッサー。それに関連するエア配管やリール機器までトータルに点検を行います。</p>	<p><b>リフト機器</b></p> <p>整備機器使用時に発生する事故の約7割がリフトによるもの。事故を未然に防ぎ、安心して作業するためにも、確かなメンテナンスが重要です。</p>
--	---	---	--	--

第4回  
「安全自動車サービス  
技能コンクール」  
6月開催予定!

ANZENはお客様の“日常点検”をサポートする形で、各種整備機器の点検メニューをご用意しています。



- 保守点検のおすすめ** ANZEN製品を長くご利用いただくため、保守点検サービス(有料)のご利用をおすすめします。お近くの営業マンまでお問い合わせください。
- 24時間サービス体制** ANZEN製品を「安心」してご利用いただくために、24時間サービス(ボイスワープ)対応をいたしております。営業時間外、および休日におけるサービス電話受付ができます。担当の営業所の電話に連絡していただければできる限り迅速な対応をいたします。
- ANZENカスタマーサービス** 0120-01-6361 当社の製品およびサービス、その他に関するお問い合わせは左記までお気軽にどうぞ。受付時間：月～金(AM9:00～PM5:00)
- ANZENホームページ** http://www.anzen.co.jp ホームページ“ANZEN Web”ではANZENの最新情報を提供しています。

**CHARGE**

税制措置を活用して賢く設備投資を!

ご存知ですか? **生産性向上設備投資促進税制**

質の高い設備投資を行う事で事業者の生産性向上を図り、経済の発展を図ることを目的として、経済産業省では設備投資の促進を促す税制措置を設けています。産業競争力強化法施行(2014年1月20日)に伴い、適用が開始された「生産性向上設備投資促進税制」では、青色申告をしている法人・個人事業主が**2017年3月31日までに**先端設備や利益改善のための設備(生産ライン等)を導入した場合、「償却(即時・特別)」か「税額控除」を選択することができます。これらの税制措置を活用し、賢く設備投資を行いませんか?



生産性向上設備投資促進税制の適用条件

チャートで適用条件をチェック!

スタート! 青色申告をしている法人・個人事業主である

適用期間中(2014年1月20日～2017年3月31日)に取得した「生産等設備」である

下記①～③の要件を全て満たす「先端設備」である  
対象要件の当否は最寄りの営業所にお問い合わせください。

- ①最新モデルである 下記(1)・(2)のいずれかに該当するモデル  
(1)最新モデルである ※ ①最新モデル要件を満たす最新モデル  
(2)最新モデルではないが、税制取得をする年度及びその前年度に販売を開始したモデル
- ②生産性が年平均1%以上向上している  
旧モデル(最新モデルの一世代前モデル)と比較して、「生産性」が年平均1%以上向上しているモデル  
※生産性=「単位時間あたりの生産量」「精度」「エネルギー効率」など
- ③一定の価額以上である  
機械装置: 160万円、器具備品: 120万円(単品30万円以上かつ合計120万円)の最低取得価額要件を満たすモデル ※ ②最低取得価額要件

税制措置

税制取得期間	償却(即時・特別)または税額控除を選択適用	税額控除
2014年1月20日～2016年3月31日まで	即時償却	5%
2016年4月1日～2017年3月31日まで	50%の特別償却	4%

※特別償却・税額控除できるのは2014年4月1日を含む事業年度以降

※利益改善のための設備(生産ライン等)も対象設備ですが、整備工場には該当しません。

④1 最新モデルの要件と最低取得価額の要件(一部抜粋)

各種要件	①最新モデル要件	②最低取得価額要件
機械装置	10年以内に販売開始	160万円
器具備品	6年以内に販売開始	120万円 (単品30万円以上かつ合計120万円を含む)

※各々対象となるものの用途・細目が規定されていますが、機械装置は全て対象、器具備品は試験または測定機器が対象となっています。

④2 ③最低取得価額要件の事例

※①最新モデル ②生産性向上(年平均1%以上)を満たしていることを想定

事例	事例:1	事例:2	事例:3	事例:4
導入設備と最低取得価額	門型洗車機及び工事費の合計が400万円	オパシメーター(35万円)を10台納入し、拠点に配備	ヘッドライトテスター本体及び工事費等の合計額が100万円	コンピューター車検ラインシステム(100万円)及び各検査用機器を同時納入し、工事費含む合計が1,200万円
当否	○	○	×	○
当否の根拠	機械装置の最低取得価額(単品160万円)に該当	器具備品の最低取得価額(単品30万円以上かつ合計120万円)に該当	器具備品の最低取得価額(単品120万円)に該当しない	器具備品の最低取得価額(単品30万円以上かつ合計120万円)に該当

中小企業の耳より情報

中小企業等については、本税制の対象要件を満たす場合、「中小企業等投資促進税制」において、**上乗せ措置が適用**できます。  
 ※「中小企業投資促進税制」と「生産性向上設備投資促進税制」を同時に利用⇒生産性向上設備投資促進税制よりも更に措置内容を拡充  
 詳細は最寄りの営業所にお問い合わせください。



申請手続きについて

申請にあたっては、簡単な手続きで税制優遇が受けられます。実際のご利用にあたりましては、**税理士など専門家にご相談の上**、弊社(安全自動車)に依頼し、証明書をお受け取りください。※証明書発行手数料として1件あたり3,000円かかります。※詳細は最寄りの営業所にお問い合わせください。

④3 「先端設備」の要件確認の流れ



## 京都日野自動車株式会社 本社工場

京都府久世郡久御山町佐山双栗37-1  
Tel. 0774-46-6060

**知りたい!**  
元気な工場の秘密

■オープン日：2013年8月19日 移転・新設

■従業員数：130名(整備部門60名)

■店舗概要：店舗概要：同社の国内販売会社として最大級の整備工場を構える京都日野自動車(株)が移転・新設オープン。新設した工場の敷地面積は1万3,600平方メートル、サービス工場床面積6,850平方メートルと、圧巻のスケールを誇り、新たな物流拠点として地域経済の発展に努めます。16スToolのうち4スToolを小型トラック専用とし、同社のメンテナンス体制を強化。環境対応にも力を入れています。年間入庫目標台数を16,000台に掲げ、トータルサービスを推し進める同社の、今後の展望についてお話を伺いました。



整備部 部長  
光村 元秀 様



整備部 整備チーム工場長  
森田 博典 様



## 最新設備・環境対応・地域貢献。お客様へのトータルサポートを実現する先進工場

■真の評価はサービス対応から。お客様の“信頼確保”を何よりも重視  
同社のモットーとして何より重視していることは、お客様から“信頼”される企業であることです。高品質なサービスや“お役立ち活動”の展開を通じ、信頼確保につなげていきたいとしています。また、同社には“お客様サポート室”と呼ばれる部署があり、サービスカーの“ドクターデュトロ”で巡回サービスを行っています。

「お客様サポート室のスタッフは、元検査員・元整備士ですから巡回中、どのような質問でも応えられるので頼もしい限りです。車両の一廻り点検以外にも、安全運転や省燃費につながる運転指導等を行ない、お客様のためになる情報を提供しています」(光村部長)と、“お役立ち活動”の展開を通じ、お客様との絆をさらに深めていく方針です。

■こだわりぬいた機器配置。特別仕様の“3分割フロアリフト”が大活躍  
新設したサービス工場については“車両の出し入れがスムーズにでき、安全の確保ができる工場”をコンセプトに、レイアウトを考えました。18スToolからなる工場は、検査ラインが小型・大型車用でそれぞれ2ライン。キーとなる小型トラックへの対応として小型専用“ツインパワーリフト”を4基。

その他に、大型専用“ツインパワーリフト”を9基、同社初となる“3分割フロアリフト”を3基導入しています。別棟には板金・洗車スToolを設け、トータルサービスを提供する万全の環境が整いました。

その中でも、今回導入した“3分割フロアリフト”は、フロアリフトの基本機能に独自のアイデアが加味された特別仕様でもあります。

光村部長と森田工場長に導入の背景や使い勝手について伺いました。「“3分割フロアリフト”を導入した理由は、目的とする作業を行うだけでなく、作業中での次の工程を効率良く行えるよう配慮したからで

す。例えば、通常フロアリフトでは、トランスミッションを外してもレーンに出しにくい。そこで、“3分割フロアリフト”の1枚目のフロアをリフター兼作業スペースとすることで、取り外したミッションをレーンに簡単に出せるようにしました。その結果、ミッションやデフの交換作業がスムーズになったと思います」と、光村部長はその利便性を評価。「バスのリフトアップは危険が伴うので気を遣うのですが、フロアリフトは乗り入れるだけで整備に入れるので安心です。スToolは常に空きがない状態ですし、回転率を上げていく上でも重宝しています」と、森田工場長もその安全性と効率性を高く評価してくださいました。

■環境配慮、ES向上を考え導入された最新設備と緊急時に備えた設備を完備

京都日野自動車(株)は、“バイオ式工場排水処理装置”や、“LED照明”など、環境に配慮した設備を積極的に導入しています。“地下水を利用した空調システム”もその1つ。「工場の地下水を使って冷風機能システムを確立し、夏場はメカニックに対しての労働環境を整えています。私はメカニック出身で、夏場の作業がいかにも過酷であるかを知っていましたので、改善したいという想いがありました。」と、光村部長が導入理由を語るように、まさにメカニックのための設備と言えるでしょう。また、同社は、80トンの防火水槽や100Vの発電機を完備するなど、緊急時の備えに万全の体制を敷いており、地域への協力体制も備わっています。

「CS」と「ES」の強化。環境対応に地域密着と、すべてを高いレベルで兼ね備えた京都日野自動車(株)。“お客様のために”というゆるぎない想いを行動力で示し、今後もたくさんのお客様の“信頼”を集めていくことでしょう。



“3分割フロアリフト”は、1枚目のフロアをリフター兼作業スペースとし、幅広く確保した特別仕様



“3分割フロアリフト”の内部は広々。作業に応じて高さ調整ができ、クイック整備に最適



“地下水を利用した空調システム”は箇所から送風が可能で、工場内の空気の淀みや夏の暑さを解消



社屋入り口付近にある芝スペースの下には80トンの防火水槽を完備

## 新潟マツダ自動車株式会社 新潟マツダ 長岡店

新潟県長岡市平島1-165  
Tel. 0258-22-2222

**いま注目!**  
のショップ訪問

■オープン日：2013年10月22日(工場リニューアル日)

■従業員数：25名(サービス12名)

■店舗概要：昨年10月に工場リニューアルした新潟マツダ長岡店。近隣にあった片田店との統廃合や工場レイアウトの再編を行い、3期に分けた工事の末、完成しました。入庫台数は月間約650台です。新潟マツダ自動車株式会社の総社員は344名、営業所は18拠点(整備工場敷設17拠点)で、各拠点のネットワークを活かして、メーカー独自開発のエコカーを武器に目標必達に向けてアクセルを踏み始めました。



取締役 サービス部長  
高田 司 様



## 地域特性を反映した導入設備。お客様にも安心感を与える新工場レイアウト

■レイアウト変更でメカニックとスタッフの連携強化!お客様にも安心感を!

中古車主体の片田店と統廃合、新・中古車共に扱う総合店舗となった長岡店。お客様への提案の幅も広がり、新・中古車、両ユーザーの取り込みも可能となりました。

リニューアルコンセプトについては、「サービス点検を主体に、来店型に対応できる店舗を目指しました」と高田サービス部長。以前は工場とショールームが離れていたことで、メカニックとスタッフが連絡を取り合うのに不便がありましたが、サービス工場をショールームに隣接させたことで、互いの連携がとりやすくなり、効率がアップしました。フロントから整備作業の進捗状況も把握できるようになったため、お客様の安心感にも繋がっています。

■独自メニュー“マツダセーフティチェック”中心に入庫促進

具体的な入庫促進策としては、6ヶ月点検を行う独自のメニュー“マツダセーフティチェック”など、定期点検を中心に来店促進を実施しています。

「DMなどで入庫案内をした場合、案内状を送付したうちの約3割のお客様が入庫されています。車検入庫を含めると約5割の入庫です。今後も更なる拡大を目指します」と高田サービス部長。

■4WD車・商用車・架装車にも対応するスTool・設備機器

以前は8スTool+検査ラインでしたが、リニューアル後は10スTool+検査ラインに拡大し、新たな機器も導入しました。

小型ディーラーには珍しく、“ツインパワーリフト”を設置。このエリアではトラック需要があり、長岡店においても商用車を含む架装車の入庫があるため導入を決めました。

また来店されるお客様の約3割が4WD車を占めることから、車検ラインでは埋設式の“多軸フリーローラー”を採用しています。“アルネオリフト”はスイングアーム式とプレート式の両方が揃っています。

スイングアーム式をメインに活用し、プレート式は乗り入れてすぐリフトアップ可能なので、故障診断等のクイックサービスに重宝しています。ピットに設置したリフトは基本的に床式を採用。排水に優れたタイプを採用したことでメカニックの作業環境も改善されました。

洗車については、これまで洗車ホースで対応していましたが、排水の問題も踏まえ新たに節水タイプの“ジズペクト”を設置しました。「従来の門型洗車機は車体に傷がつきやすいイメージがありました。ですが“ジズペクト”のリップブラシはボディにも優しく、車検を終了した車の引き渡し前洗浄だけでなく、中古車の美観アップや営業車、試乗車にも安心して使用しています」(高田サービス部長)。



節水効果も高い“ジズペクト”で効率洗浄が可能になります



“多軸フリーローラー”は埋設式を採用し4WD車の検査も効率化

■「地域社会の発展・繁栄に貢献する」

新潟マツダ自動車の経営理念にある「地域社会の発展・繁栄に貢献する」の一節は、お客様との絆づくりが企業発展の礎になることを表しているのでしょう。

導入された機器には、商用車や架装車が活躍するエリアである影響が見受けられました。日差しが降り注ぐ広々としたショールームでは、ウイークデーにもかかわらず家族連れの姿があったのも印象的です。マツダは、クリーン・ディーゼルの主力車種である、アテンザ、アクセラ、CX-5とこれからも新車が発売される予定です。

「クリーン・ディーゼル需要で工場とディーラーは活気が出てきている」と高田サービス部長。全員が中期計画目標達成に向けてスTool全開で歩を進めていきます。



商業車の受入れもあることから、“ツインパワーリフト”を導入し整備範囲を拡大



工場内のリフトは排水の観点から“スペースリフト”が多くを占めています